

展望	1	公開月例研究会講演記録〈第 263 回〉(2011.12.15)	25
公開月例研究会講演記録〈第 261 回〉(2011.10.18)	2	公開月例研究会講演記録〈第 264 回〉(2012.1.28)	38
公開月例研究会講演記録〈第 262 回〉(2011.11.16)	9	産研だより	61

## 公開月例研究会講演記録〈第 261 回 (2011.10.18)〉—

### 「酒造業と東日本大震災」

株式会社一ノ蔵 代表取締役会長

櫻井 武 寛

皆さま、こんばんは。

一応今日は震災に関する話をいろいろ準備してきたのですが、皆様方の顔を見ましたら、話題を変えてお酒の話だけしたくなりました。これだけ将来、有望な消費者がいる教室ですから、お酒の話でみんなと盛り上がりたいたのですが、役割は役割なので、しばらくは震災と私どもの仕事の話を上げたいと思います。

私どもの会社は宮城県の中央部、新幹線で言いますと仙台の次に古川という駅があります。その旧古川市、今は合併して大崎市と言いますが、そちらにございます。社員は震災当時、石巻、三陸町、気仙沼に1人ずつ出ておりましたけれども、全員無事でございました。

私の自宅は東松島市にございますが、自宅から南に直線で3.5kmぐらい行きますと海岸線になります。その3.5kmに津波が来まして、私の家の周りは瓦礫であるとか、多分どこかの田んぼから流れてきた藁がものすごく積もりましたし、車も流れてきて、一面泥だらけの状態になりました。私のところは少し高かったので床下浸水で、玄関までしか来なかったものですから助かりましたけれども、近所は皆、1mから1m50cmぐらい、泥水に漬かっています。

非常に粒子が細かい泥なものですから、清掃が大変でした。食器棚に入れてあるお皿1枚1枚に全部、丁寧に泥が入るのですね。そのぐらい細かい粒子です。私の家の周りも泥を取りましたが、足がつるつる滑ってなかなか泥がかき出せないという状況でした。その程度で済んで、逆に周りの

方に申し訳ないような気持ちだったわけですが、一安心いたしました。

私の家から数分のところにある高校の体育館には、200体から、多いときには300体近くのご遺体が安置されておりました。柩がずらっと並んでいる、とても信じられないような光景が家から数分のところにあったということです。

私の家と海岸線とのちょうど中間に航空自衛隊松島基地の滑走路があります。実は私、2年前にF2の戦闘機に乗って、G8という世界を体験しています。F1のレースでG5ぐらい、ジェットコースターの一番すごいのでG3ぐらいですから、私が体験したG8というのはものすごい世界でした。そのF2の戦闘機は100億円以上します。これが18機、全部駄目になりました。約2,000億円、航空自衛隊松島基地でなくなったことになりました。

皆様よくご承知のブルーインパルスというのがありますね。これは6機編隊で、予備機が1機ありますから7機あるのですが、ちょうど福岡の芦屋基地に展示飛行に行っていましたので、ブルーインパルスは残りました。ブルーインパルスは今、別な基地に行って、三沢とか芦屋とかで飛行訓練しているはずですが、

ともかく大変な状態でございました。私も関係しているまちづくりのNPOでも、残念ながら27歳の女性職員が亡くなりました。NPOの事務所で仕事をしているとき地震が来て、自宅に帰って津波にあってしまった。逃げたのですが、車の渋

滞で動けなかったようで、本当に大変な状態で亡くなったようです。

実は東松島市が「もうとても処理し切れないので、これから上がったご遺体は全部土葬します」といって日にちを決めた、その前日にご遺体が見つかりました。近くで受け入れてくれる火葬場がどこもなく、遠くの町まで行って火葬してきましたけれども、とにかく土葬しなくて済みません。現在、土葬した方を掘り起こして火葬していますが、相当傷んだご遺体を火葬しなくてはならない。大変な状況がまだまだ続いております。

各まちに商工会とか商工会議所とかいう経済団体があります。私の住んでいる東松島市にも商工会があります。小さな街ですから、会社とか個人も含めて、会員数が820社ですが、代表者が34名お亡くなりになっています。床上浸水以上の被災が820社のうち420社ですから、5割以上の方が床上浸水あるいは全壊、流失といった被害を受けているというのが私どもの町の状況です。

会う人、会う人、みんなドラマを持っています。つい1週間ぐらい前、気仙沼の酒蔵の社長と会ったときに、非常にショッキングな話を聞きました。その社長の友人の方は家族9人で暮らしていたそうです。おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、ご本人、奥さん、子ども3人。そのうちの8人が亡くなられて、ご本人しか残らなかった。私、それを聞いたとき、そんなことがあるのか、信じられないという気持ちになりました。その方のこれからの生きる意欲というものが果たして維持できるのかと思うと、本当に辛い話です。

今回、私のように被災した者、あるいは被災地に住んでいる者として、今日ここにお邪魔していろいろお話をさせていただくわけですが、私自身が経験していないこともたくさんありますので、結論づけたような話は全くできません。ただその中で、私自身が学んだこと、あるいは現状をお話しして、皆様方ご自身の問題としていろいろお考えいただく、そのきっかけになればありがたいと思っております。

まず私どもの会社がどんな状況だったのか、写真でご覧いただけます。

(スライド上映5分 省略)

今ご覧いただいたのが我社の状況ですが、津波で流されたお蔵に比べますと、逆に本当に恵まれ

ていると思っております。

4月に入って全国で支援の輪が広がりがちで、あちこちから大変なご注文をいただいています。これがいつ頃終わるのかと思ひながら、ご要望通り対応していましたが、全くやまなくて、ついに先月あたりから在庫が少なくなってしまいました。現在は計画的に数量を決めてお願いしている状態です。

お酒というのは出荷できるまでに半年ぐらいかかります。お米を磨いて、蒸して、麴(こうじ)を作り、醪(もろみ)を作り、貯蔵期間を入れると半年ぐらい先になるものですから、現在の品不足は全く解消しない。生で出せば早くは出せるのですが、そうしますと貯蔵する製品にも影響を及ぼすということで、皆さま方にはご迷惑をかけますけれども、もしお飲みになっている方がいらっしゃったら、今のうちにお買いになっていただいたほうがいいかもしれません。

内輪話ですけれども、昔から日本酒というのはメーカー同士の原酒のやりとりがありました。ある大手のメーカーの下には50社とか60社の蔵元がありまして、そこの蔵元がつくったお酒を大手のメーカーに原酒で出荷して、大手は自分のラベルをそこに張って出す。これを昔は桶買い・桶売りと言っておりましたけれども、今は税金を納めないお酒の売買という意味で未納税酒と言っています。

それを1つの組織でやるのは一向に構わないわけですが、今回の震災でお酒が売れたとあって、今まで桶買いをやっていない、しかも組織立って継続していないお蔵が、もしお酒を買って自分のラベルを張って出荷した場合、皆さま方、どうお感じになりますか。便乗商法と言われても仕方がないと私は思います。

私は宮城県の酒造組合の代表をしているものですから、宮城県ではそういうことを絶対しないよという通達を出しました。そういったことで信用を失うことが、将来どんなにマイナスになるか、肝に銘じてほしい。提携している先から買うのは一向かまいませんが、新たに全然関係ない地域の新潟から買ってきたり大阪から買ってきたり、そういったことはやめてほしいと、その辺りの注意は今十分払っているところでございます。

宮城県酒造組合には25社おりますけれども、4

軒の蔵が全壊です。津波で全壊したのは1軒で、テレビでよく流れました名取川、あのそばにあった酒屋さんが完全に流されました。あとの3軒は地震で、内陸にあるのですが、昔の土蔵造りあるいは岩造りで、壊れて酒が造れなくなりました。石巻の酒屋、塩釜の酒屋は、津波がどんどん入ってきたけれども、建物やタンク等が流されるところまでいきませんでした。

このように宮城県の酒屋も大変な被害をこうむったわけですが、東日本大震災からの経済復興として今考えられるのは3つぐらいかなと私自身は思っております。

1つは、もともとあった、そこで仕事をしていた方が復興するということです。

もう1つは震災に関係するさまざまな企業による活性化です。震災パブルといいますか、今大変な人が入ってきていて、ホテルはほとんどいっぱいです。一時は保険会社の方々がたくさん応援に来ましたので、その応援部隊の泊まる宿舎がないということでしたけれども、現在は復興のための応援部隊です。建設関係もあれば、土木関係もあれば、設備関係その他もろもろの方が来ています。これによる経済の活性化と言っては語弊があるかもしれませんが、経済支援があると思います。

もう1つ、今後考えられますのは、私どもが全く考えられなかった企業が私どもの地方に来る。例えば、さっきお話しした航空自衛隊のある海岸沿いの一帯は津波で住宅はみな流されて全く更地になってしまいました。その土地を活用して何かできないかということで、メガソーラーシステムとか風力発電とかの新興企業が今来ています。後で申し上げますが、予算措置の問題がありまして、なかなか話が進んでおりませんが、この3つが考えられるのかなと思っております。

今回の震災での私なりの考え方ですが、時間の関係でしり切れとんぼになるかもしれませんが、最初に結論だけ申し上げておきます。

まず1つは危機管理についてですが、危機管理の一番大切なことは、どこを想定するかです。危機管理の中身ではなく、どこを想定して危機管理をやるかという、その想定そのものが危機管理で一番のポイントではないかということを実感いたしました。

2番目は、平凡なことですけれども、親戚であるとか、知人であるとか友人であるとか、地域であるとか、そういったものの大切さを改めて認識しなければならないということです。これは皆様方個人個人にも当てはまることだと思います。

3番目は、こういったときの解決に必要なのはスピードだ。ほかに何も要らない。巧緻よりも拙速が求められるということです。

4番目は制度上の問題です。法律であるとか通達であるとか、公務員であれば職務分掌であるとか、その中身をもう少し考えていただかないと、今回のような大きな震災には対応できないことをつくづく感じました。

最後に、日本人の道徳観というのが果たしてどんなものなのか、もう一度考えるべきではないかと思っております。皆さま方、どのように感じられるか分かりませんが、問題提起として後でお話し申し上げたい。5つの点をこれからお話ししてまいりたいと考えております。

まず1番目の危機管理の想定です。一ノ蔵は今ご覧いただいたような状況でしたけれども、私自身は震度6あるいは6以上を6回経験しております。多分私ぐらい、震度の大きい地震を経験している人間はそういないと思いますけれども、1978年、宮城県沖地震がございました。このときも大変な震災で、ブロック塀が倒れて相当の死者が出ました。2003年5月、局所的に私どもの市に大きな地震が来ています。2ヶ月後の7月に、宮城県北部地震という非常に大きな地震が来ました。宮城県北部地震というだけあって、皆様方は多分覚えていらっしゃると思いますけれども、私自身は宮城県沖地震より強かったと感じております。私の家の真ん前の家は完全に倒壊しました。翌年6月の岩手宮城大地震では、栗駒山が崩れて、300mぐらい山がずれてしまった。そして今年3月11日と、4月7日にも6弱の余震が来ております。

このように6回もの震度6以上の地震を経験しておりますけれども、今回の場合は、地震に加えて津波と、さらに津波による災害の最もひどい原子力発電所の崩壊、そして放射能の問題が出てきました。なぜこれだけの被害が出たのか振り返ってみますと、実は東北の我々の津波の想定には基準があります。頭の中にみんながなんとなく持つ

ている基準ですが、それはチリ地震津波です。

1960年のチリ地震津波の記憶はまだ私の頭の中にもありまして、石巻の北上川の河口から津波が来て、石巻市内に船がどんどん流れていったというシーンがあります。それでも被害は石巻市内のごく一部で、津波の高さは6mでした。これ以上の津波は来ないだろうということで、各海岸線もチリ地震津波を想定した堤防を作っていたわけです。ところが今回は、一番すごいところは30m近い津波だった。湾の狭いところにだーっと押し寄せますから、最後はそれぐらいの高さになっているわけです。だから想定外だという言葉がしょっちゅう出ていますね。

ところが、関東大震災は1923年ですから、まだ90年経っていない。それほど大昔ではないわけです。関東大震災のときも大変な死者が出ています。火災で亡くなった方が多いのですが、津波も相当大きくて、熱海では12mの津波が来たそうです。それが90年前ですから、当然想定の中に入れておかなければならないことだったわけで、想定外というのは当たらない。危機管理というのは、どういう想定をするかによって全く対応が違うわけですから、全てのいろいろな対応がきちんとした想定のもとに行なわれていなかったことを、今回私どもも反省しなければならないと思っています。

皆様方もそうでしょうけれども、私どもも一番心配なのは、ここ東京の地震です。この間は、場所によっても違いますけれども、たしか東京は6弱で大騒ぎになりました。高層ビルは倒れそうに揺れましたし、電気も電車も止まっていますので、家まで徒歩で何10kmも歩いたという方もいます。皆様方もそうだったかもしれません。

私は震度6を経験したと言いましたけれども、震度6弱と震度6強では全く違います。震度6弱はゆらゆら、がたがた、どしゃんどしゃんという感じですが、震度6強になりますと、ぐしゃっという感じです。一発でぐしゃっと来る、これが震度6強です。ですから、震度6弱と震度6強は全く違った状態になります。もし震度6強が東京に襲ってきた場合、どんなことになるか。

私が宮城県沖地震より強いと感じた宮城県北部地震は、局所的ということもあって、復興が早かったのです。その調査に神戸からいろいろな方

が来て、阪神淡路のときと比較されました。なぜこんなにこの地域の復興が早かったのか、いろいろな要因が挙げられました。

まず1つは地域住民同士の関係が非常にあついで、お互いに助け合いながらいろいろなことをする。親戚とか友人でなくても、近所というだけで、もしその家が壊れたら自分のところに泊まりなさいとか、そういった助け合いの精神がその地域にきちんとあったということです。また、そこに居宅を持っている人たち、あるいは貸家を持っている人たちの資産内容が思ったよりよかったです。家が古いせいもあるかもしれませんが、建て直しの資金をある程度皆さん持っていたということです。さらに、土地が広いということです。土地に余裕があるものですから、瓦礫の片づけであるとか、建設する際の機材の搬入などもスムーズにいった。そんなことを指摘されております。

翻って東京を考えた場合、いかがでしょうか。この過密な中で復興しようとしたら、おそらく大変なことになる。重機も入れない。住居もそう広いわけではないので、食品倉に食糧を蓄えている人もなかなかいらっしやらない。どこかに集中して食糧を買いに行くという事態が想定されます。復興が始まっても、マンションなんかですと、住民の同意の難しさがあります。修理するにしても、資金負担ができない方が何人かいらっしやれば、そのマンションは手がつけれない。曲がったまま、傾いたまま、誰も住めない状態で放置される、そういったことも起きてくる。何よりも政治、経済、教育、文化、全てがこれだけ詰まっている地域です。これらが全部崩壊したら、一体どうなるのか。考えただけでも恐ろしい気がします。

そういう東京という都市の危機管理の想定を本当にしているのか。私ども経験者として、非常に心配でございます。このまちにもし震度6強が来た場合には、日本全体が完全におかしくなりますから、きちんとした想定のもとに適切な対策をぜひ立てていただきたい。皆様方、東京にいる方は一人ひとりがそういったことを考えて、行動基準を確立していただく必要があると考えております。

2番目の周囲の方との密接な関係ということで、事例としてお話ししますが、私の母親は仙台



一人で住んでいます。間もなく90歳になりますので、痴呆ではないのですが、少し物忘れが激しくなって、この間は骨を折って、震災のとき私は母親の介護で仙台におりました。仙台も食糧が大変でした。スーパーには長蛇の列で、ちょっとした物を買うのにも何時間もかかるという状況でしたけれども、母の家は食糧には不自由しませんでした。なぜかといいますと、私の母親は昔から何十年も、近所の八百屋さんにいろいろなものを頼んでいます。その八百屋さんはお魚も売っていたり肉も売っていたり乳製品も売っているし、雑貨も売っている、昔のよろずやみたいなお店です。このお店が私の母親の分を確保しておいてくれたのです。それはやはり、ずっとお付き合いがあって、母親がそこで一人で住んでいるのを知っていて、そしてそういうことをやっていた。おそらくスーパーに買い物に行っていましたら、絶対こんなことはあり得ない。確かにスーパーに行けば同じ物が安いかもしれませんが、そうしたつながりが震災後の生活を支えてくれた。そんな例がございます。

ガソリン不足はこちらでも大変だったようですが、ガソリンに関しては、会社がある町の、私が個人的に親しいガソリンスタンドの経営者がおりまして、その方が優先してガソリンを確保してくれました。ですから私はガソリンに不自由することはなかったし、山の中にある会社ですから、車がないと通勤できないわけです。同じ方向の人はなるべく同じ車で通勤するようにしましたけれども、その車のガソリンも、そのガソリンスタンドのおやじさんが確保してくれました。

東松島のほうには家内がいたのですけれども、こちらも隣近所みな助け合いです。井戸のあるお宅がありまして、飲み水には使えませんけれども、洗い水には使えるのでみんなに分けてくれる。食べ物も、自分のところで作ったものをみんなが持ってきてくれる。一杯やりたい方もいますから、うちではお酒を回すとか、地域の方々には本当に助けていただきました。

九州とか大阪とか、離れた場所に私の知り合いや家族もいるのですが、輸送手段がない。送ってほしいといっても着かないわけです。やはりそういったときには、そばにいる方々との助け合い、人と人とのつながりがいかに大切か。身に沁みて

感じました。

母親の話に戻りますが、町内会の方が炊き出しをして、おにぎりを届けてくれたり、「おばあさん、大丈夫ですか」と声をかけてくれたり、夜中に懐中電灯を持って見回りに来てくれたり、そういうこともしてくれました。非常にありがたいことで、そこでも周囲の人との密接な関係がいかに大事かということを感じました。

3番目にスピードの問題ですけれども、今そのスピードがなくて、地方は大変な状況に陥っております。復興計画が今全くないのです。各自治体が復興計画を独自に立てていますが、それは全く発表されておられません。なぜかといいますと、地方が負担するにはあまりにも金額が大き過ぎて、とても実現できない。

東松島市の隣のまちの石巻市では年間6万トンのごみが出るそうですが、今回処理しなければならぬ瓦礫が600万トンですから、ちょうど100年分です。100年分の瓦礫を処理する資金が地方にあるわけがありません。復興計画を作っても、予算の裏付けがなければ、復興計画そのものが絵に描いた餅になってしまう。

被災を受けた場所に会社がある人、そこに住んでいた人は、どうしたらいいかわからないわけです。一体俺はここに住んでいいのか、駄目なのか。その土地を一体どうしてくれるのか。すでに津波を受けた場所の土地は買い手がつきません。資産価値ゼロに等しいような状況です。そうした中で、どういう復興を、あるいは自分の住居をどのように考えるか、全く計画が立たない。これはやはり、国からのお金がどういにかたちで来るのか来ないのか、いまだもって全く示されない、その弊害が完全に出てきていると言わざるを得ないと思います。

最近のニュースで、国がある一定額を拠出して、それを福島県に自由に使わせるという話が1週間ぐらい前に出てきましたけれども、ほかの地域ではそういったことはまだなくて、宮城県の場合にもいろいろな政策的な後れがあります。

仮設住宅についても、民間のアパートを借り上げて、そこに住まわせるということが行なわれました。ところが、大家さんが改修して貸したけれども、ついこの間まで、家賃が1銭も支払われていなかった。宮城県が払っていなかったのです。

大家さんの中には、これではとても駄目だからといって、被災者にお金を立て替えてくれと迫った。ところが、被災者はお金がない。じゃあ出ていってくれという、そんな事例まで現実に起こっております。これも、県あるいは国からの資金が来ていないから、そういった問題が起きる。スピード感がないことがいろいろなところに弊害として出てきているわけで、いかにスピードが大切か、お分かりいただけるとと思います。

今回、迅速に対応したのは自衛隊と警察で、松島基地でも早くに滑走路だけは使えるようにしました。戦闘機は特殊な装置がありますので離着陸できませんけれども、一般機は離着陸できるようになりまして、天皇皇后両陛下も松島基地に降りられて、そこからヘリコプターで被災地に向かわれた。まさかそんな形で両陛下が私の住んでいる町にいらっしゃるとは思わなかったですけれども、自衛隊、警察はやはり危機管理ができていますのか、私ははたで見ていても、いい動きをしているなど感じました。

国政の停滞は今も影響があります。先ほど申し上げました資金の面もそうですけれども、役人の使い方を間違えたのではないのでしょうか。優秀な役人がたくさんいるわけですから、そういった方々の能力を最大限に活用して対応すべきだったのではないかと。ところが現実には、右往左往して、組織的な動きができなかった。そして、判断を任せようような小委員会なるものがたくさん出てきて、どうにもならなくなったというのは、皆さんご承知の通りです。その弊害がいまだに地方に来ております。この点の検証と反省をぜひやっていただきたいのですが、あまりにも遅過ぎるといのが我々の実感です。

それに関連しますけれども、4番目の制度上の整備も今後、大震災に対しては全く違った発想で考えなければならぬのではないかと思います。

一時、自衛隊がガソリン不足に陥りました。もし戦争が起きてガソリン不足だなんていうと大変で、本来考えられないことです。なぜそんなことが起きたかという、自衛隊が使うガソリンも経産省が管理していた。その経産省の組織がきちっと動かないものですから、自衛隊にガソリンを回せと言っても回らなかった。自衛隊は独自にあらゆる基地から集めて当座しのぎましたけれども、

救援物資の輸送や行方不明者の捜索に実は大変な支障を来していたようです。こういうところも全く対応ができていなかった。ガソリンをどこで管理するという制度上の問題が危機管理されていなかったということです。

これは人によって見方が違うかもしれませんが、私は危機に対する公務員あるいは役人の方の独自の判断ができるような仕組みを作るべきではないかなと考えています。公務員は法律とか通達でがんじがらめになっていますし、その中身を知っているだけに、その枠から飛び出せない。地方自治体の場合はまだよくて、首長がやれと言えば、首長がその責任を取ってくれます。しかし、国家公務員の場合は、段階になっていて、あとは政治家ですから、結局自分が責任を取らされるのを嫌がる。かといって、何でもかんでも首相が責任を取るというわけにもいかないでしょうから、役人にある程度の裁量権を認めるようなことも考えていかないと、本当の危機管理はできない。そのためには法律や制度上の整備をすべきだと考えます。

民間では結構独自に判断してやっています。アイリスオーヤマという会社がDIYの会社を買収して直営店を持っています。ここの気仙沼の店長が独自の判断で、住民の方にガソリンとか灯油を上げていました。それがテレビに映りまして、その店長が「こんなことをやって、社長に怒られるかもしれない」と話していました。その後、少し落ち着いてからその社長に会いましたけれども、「いやあ、うちの社員は誇りだよ。あんなことを言ってくれて、すばらしかった」と喜んでいました。

セブン-イレブンの系列で、ヨークベニマルという福島に本社があるスーパーがあります。ここは私、ちょっと関係しているものですから、内情を知っていますが、全て店長の独自判断で、食料品とか雑貨品を出しました。その点数とか金額とかルールを決めて買い占められないようにして、店の物をかき集めて、しかも価格を安く出した。

民間の場合は現場でそういう独自判断をしているわけですが、役人、公務員というだけでそういう判断ができない仕組みになっている。その仕組みがもともと危機には対応していないわけですから、考えていくべきではないかなと思っています。

最後の道徳観の問題です。今回の震災に関して、海外から高い評価を得ております。秩序ある、道徳心があると、お褒めの言葉を世界からもらっていますが、実は内情はそうでもありません。やはりいろいろなことが起きています。

私の親しい友人が本とビデオのレンタル店を石巻と仙台に6店経営していますけれども、レンタルは全部TSUTAYAです。このうち石巻の3店が津波にやられました。ビデオは2階にあるところも1階にあるところもありますが、本は全部1階ですから全てやられました。店員の方も逃げましたので、レジはそのままだったんですね。水が引いて店に戻ったときには、レジが壊されて、お金は全くない状態でした。

まあそれぐらいのことはあるかもしれませんが、実は数日後、息子さんが店長をしている店にガラスを割って侵入してきて、私の友人と息子さんがいる前で、DVDをみな持っていかれた。息子は止めようとしたのですが、親は危険だからといって、なすがままにさせておいたそうです。「食品ならまだ分かる。なんでこんなときに、災害を受けていない店舗のガラスを割ってDVDなんかを持っていくのか」と嘆いていましたけれども、実はそういう事例はたくさんあります。

誰もいなくなった住居、空き家、店舗も相当荒らされています。宮城県警が各家を回って貴重品などを集めました。現金だけで13億円集まっています。皆さん、逃げるのに精一杯で、いろいろなものを持ち出すことができなかった。ですから警察は金庫をそのまま持ってきたりしまして、11億円はご本人に返すことができたようです。宮城県だけでそれだけのものがあつたわけですから、当然それを狙った人たちもいた。実際に取られた人もいて、世知辛い話ですが、飲食店のカラオケを持っていった例なんか山のようにあります。つなげば歌えるのですから、家で歌うのでしょうかね。

これも私の知人で、セブン-イレブンを経営していたオーナーですけれども、彼の店もやられました。その後、全てのコンビニは新聞でガラスをふさいで中が見えないようにしていましたけれども、一番最初になくなったのは何だと思いますか……たばこです。食品ではなくて、たばこが一番

先になくなったとって、彼は笑っていましたが、もちろん警察に連絡しても警官一人来てくれません。もうそんな状態ではないというわけです。

遺体の指がなくなっているという噂が立ちました。指輪を取るために指を切ったんだという、そんな話がまことしやかに伝わってきましたけれども、私は、それは嘘だと思います。それほど高価な指輪をしている人ばかりではありませんから。しかし、奪うものがDVDや指輪ではなくて、もしミルクだったらどうなのだろうとか、そんなことも考えさせられるような大変な状況だったわけでございます。

ですから、きれいごととは聞こえてくるのですが、現実はどうそう生易しいものではない。やはり大変なことがその地域地域では起きています。東京でもし同じことが起こったらどうなるか。日本人の道徳心に頼るといっただけでは解決できない問題ではないかなと思います。

今業界でまとまらないと話がまとまらなくなってきましたので、魚なら魚の業界、塩害を受けた田んぼなら農業関係、我々のような食品関係、工業関係、建設関係、いろいろな団体がほぼまとまったかたちで動いております。

そうした中で、宮城県の米は安全だという宣言が出されましたので、私どもも各社酒づくりを始めたところ。先ほど在庫が少なくなったと申し上げましたけれども、今一生懸命酒作りをしております。皆様方のお手元に届くのは来年2月過ぎからで、その辺になればやっとな解決が図れるかと思っております。

今も市場には出ておりますので、ぜひ日本酒をお楽しみいただきたいと思っております。寒い折、ゆっくりお燗酒も試してみてください。結構美味しいものです。

ただ、私はいつもお願いしているのですけれども、居酒屋等に行きまして、「お燗ください」と言いますと、必ず「あ、熱燗ですね」と言われます。そこに書いてあります通り、熱燗というのは本当に熱い燗が熱燗でございます。ぬる燗とかいろいろなものもありますので、お試しいただきたいと思っております。